

平成 28 年 10 月 20 日
大分工業高等専門学校

平成 28 年度 足踏みミシン修理・贈呈事業報告

1. フィリピン共和国での活動

1-1 渡航者

(教職員)

氏 名	所 属・役 職
田中 孝典	都市・環境工学科 教授
岩本 光弘	技術部 設計創造室 室長

(学生)

氏 名	学 科・学 年
箕井 梨乃	電気電子工学科 5 年
梅本 恭平	電気電子工学科 3 年
吉田 知世	都市・環境工学科 3 年
佐藤 拓郎	都市・環境工学科 2 年
本村 理香子	都市・環境工学科 2 年
手島 萌	都市・環境工学科 2 年

1-2 行程

日 時	業 務
9/11(日), 9/12(月)	移動 (大分 — 福岡 — マニラ)
9/13(火)	足踏みミシン修理技術の指導と交流会
9/14(水)	予備日
9/15(木)	現地視察 (贈呈ミシン利用状況等)
9/16(金)	移動 (マニラ — 福岡 — 大分)

1-3 活動概要

① 9/13(火)は、25 年度に実施した Pampanga 州 Magarang 地区の the Holy Rosary Church において足踏みミシン修理技術の指導と交流会を行う予定であったが、修理技術の指導を受ける現地人が貧困のために、the Holy Rosary Church への交通手段が無いこと等から、大分県フィリピン友好協会のアレンジメントにより修理技術の指導を受ける人達の居住地区に赴いて修理技術の指導と交流会を実施した。

赴いた地区は、今年 10 月に足踏みミシン数台の贈呈を予定している、Pampanga 州 Concepcion Magao 地区である。同 Town の人口は、約 4,000 人、家屋数は約 700 棟、

産業は農業のみで、3年前に電気が供給された地区であり、生活水は井戸水で下水道は全く整備されていないために、周辺の河川の汚染状況および家屋を含む生活環境は劣悪であった。また、多くの子供達が裸足であったことも、同地区の貧困さが伺われた。

同地区の区長によると、農作物の収穫が全く無い7月から9月は、各家庭は無収入で、その時期は各家庭で僅かに貯えている穀物と家屋周辺に生育している植生を摂取して飢えを凌いでいるとのことで、収入が全く無い時期等を含め、本校から贈呈を予定している足踏みミシンがあると、縫製品の作製と販売により収入が得られることで、地区全体の各家庭における生活支援に大いに貢献する。また、足踏みシシンの運用は、地区住民全員が平等に収入を得られるように午前、午後と夜間の3部にグループ分けを行い、1日当たり100フィリピン・ペソ（日本円：200円、学族4人分の1日分の食費）の収入を得ることを目標にする、とのことであった。

渡航学生6名は3グループ（1グループ；2名）に分かれて、以前に他の地区に贈呈した足踏みミシンを用いて、現地人に対して修理技術の指導を実施した。その後、渡航学生は地区の子供達を含む住民達と交流を行った。

今回訪問した地区は、Pampanga州には多く点在しているとのことであった。

② 9/15(木)は、昨年度に贈呈した足踏みシシンの利用状況を確認するために、マニラ市内のNITANG地区を訪問した。同地区のインフラ等が劣悪な貧困地域であった。

大分県フィリピン協会が運用している同地区の民家の一室に贈呈した足踏みミシン4台が置かれており、午前、午後と夜間の3部にグループ分けされた各家庭の母親等が製品の作製と販売を行っている。訪問時には、足踏みミシン4台を用いて、周辺の学校等で販売する靴下、制服やカーテン等の作製が行われていた。靴下の販売額は1足当たり10フィリピン・ペソ（日本円：20円）で、作業場は高温、多湿で薄暗く、劣悪な作業環境であった。

作業中の年輩の女性達は、贈呈した足踏みミシンを用いた縫製品の作製と販売により収入が得られ、現在では子供を学校に通学させていること、病弱な家族を病院に診察してもらい、薬を購入できるようになったこと等、贈呈した足踏みミシンに対する感謝を気持ち述べていた。

その感謝の言葉に対して渡航学生は、感慨深い様子であった。今回の視察から贈呈した足踏みミシンが貧困地域の生活支援に貢献していることを確認できた。また、昨年度に他の地域に贈呈した足踏みミシンにおいても同様であるとのことであった。

【Pampanga 州 Conception Magao 地区】



家屋



汚染された河川



修理指導



交流会

【マニラ市内の NITANG 地区】



NITANG 地区の様子



昨年度に贈呈した足踏みミシンの利用状況の現地視察

2. フィリピン共和国への足踏みミシン輸送

平成28年9月25日に本校より修理した足踏みミシン30台を大分県フィリピン友好協会が運営している地域自立支援センター（フィリピン共和国 マカティ市内 St. John Bosco Church 内）に向けて輸送しました。

輸送した足踏みミシンは、 マガオ地区に13台、パシッグ1区に5台、パシッグ2区に5台、ニダング地区に7台を贈呈しました。



足踏みミシンの搬出

3. 贈呈した足踏みミシンに関する現地からの報告

（大分県フィリピン友好協会会長 吉武ロドラ氏からの報告内容）

大分工業高等専門学校から贈呈していただいた足踏みミシンの贈呈先の内訳は、マガオ地区：13台、パシッグ1区：5台、パシッグ2区：5台、ニダング地区：7台です。

それぞれの地区を訪問し、足踏みミシンが貧困層の人々の生活に貢献していることについて、以下のとおり報告いたします。

貧しい地域の主な収入源は農作物です。しかし、暑さや雨期の激しい雨などで、農作物の収穫が駄目になってしまうことも珍しくありません。そこで、贈呈された足踏みミシンを用いて洋服を作れるようになり、その洋服を販売して安定した収入を継続的に得られるようになりました。作っている洋服は、学校の制服、普段着など様々です。

作った洋服の販売で得られる月々の収入は、貧困層の人々にとってはとても大きく、生活が向上した、と話してくれました。今までは貧しくて病気の旦那さんの治療費が無かったけれど、洋服を売るようになって満足な治療を受けさせてあげられるようになった、と心から嬉しそうに語ってくれた方がいました。

また、ある女性は子供を学校に通わせるお金もなかったけれども、今は足踏みミシンによって得られる収入のお陰で、子供を学校に通わせて、教育を受けさせているから将来は良い仕事に就いて貧しさから抜け出せると思う、本当に足踏みミシンに感謝しています、と言うのを聞いた時、胸が熱くなりました。

贈呈していただいた足踏みミシンは、現在の生活を単純に向上させただけではなく、子供の未来の生活までも改善する一助になっている、この活動の与える影響の大きさと意義を再確認しました。

足踏みミシンを贈呈して下さった大分工業高等専門学校の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

大分県フィリピン友好協会
会長 吉武ロドラ



現地での足踏みミシンの活用状況

4. 報道・広報

- ① 今回の活動に関する内容が平成 25 年 9 月 10 日（土）、大分合同新聞 朝刊に掲載されました。
- ② 第 11 回 おおいた国際協力啓発月間事業での活動実績に関するパネル展示



**大分工業高等専門学校
足踏みミシンボランティア部**



平成 15 年より足踏みミシンボランティア部は、東南アジア諸国の貧困層等に対する支援を目的とした活動を行っています。

展示 入場無料

**足踏みミシン
ボランティア活動のパネル展示**

【日時】 10/18(火)～30(日)
【会場】 ライフバル 大分市内町 3 丁目 7-39

学生主体のボランティア活動として、ものづくりの技術を活かし、国内で使用されなくなった足踏みミシンを修理し、東南アジア諸国の貧困層などに寄贈するとともに、学生達が寄贈先に赴き現地の人々に壊れたミシンの修理技術を指導することにより生活及び就労支援を行っています。



ライフバルでの活動パネル展示の様子 (H28. 10/18～10/30)